

タクシーへの支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -



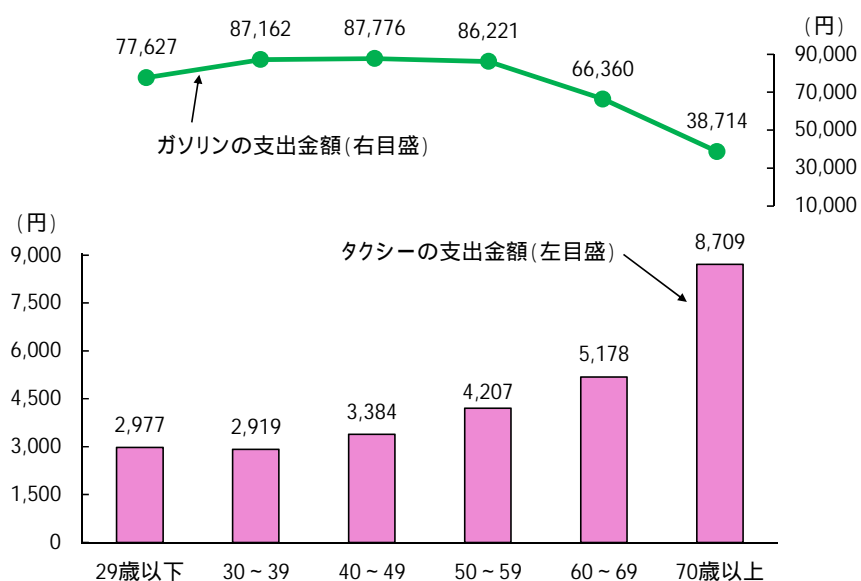
皆さんは普段、買い物や旅行など外出した際、どのような交通機関（鉄道、バス、タクシーなど）を利用されますか。これから年末にかけて、買い物や忘年会などでタクシーを利用する機会が増える方も多いのではないのでしょうか。そこで、今月はタクシーへの支出を中心にどのような世帯や地域で支出が多くなっているか、家計調査の結果から見てみましょう。

70歳以上の世帯で多いタクシーへの支出

1世帯当たりのタクシーの年間支出金額（平成22～24年平均）を世帯主の年齢階級別に見てみると、70歳以上の世帯が8,709円と最も多くなっており、最も支出が少ない30～39歳の世帯（2,919円）の約3倍となっています。一方、自家用車の利用をガソリンの年間支出金額で見ると、70歳以上の世帯が38,714円と最も少なくなっています。

高齢の世帯にとって、乗降場所など自由の利くタクシーは、重要な交通手段となっていることが分かります（図1）。

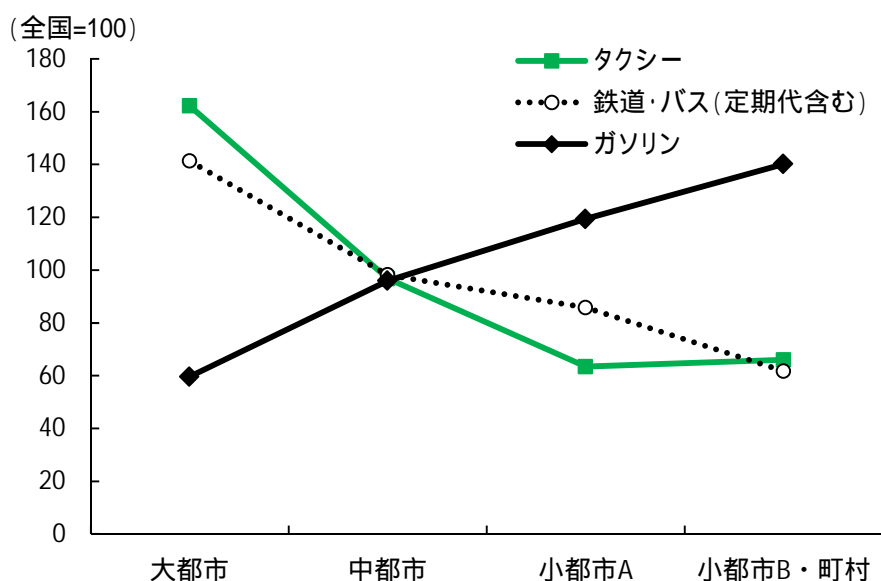
図1 世帯主の年齢階級別タクシー及びガソリンの年間支出金額（平成22～24年平均）



大都市で多いタクシーへの支出

次に、タクシー、鉄道・バス（定期代含む）及びガソリンの3つの支出について、1世帯当たりの年間支出金額（平成22～24年平均）を、それぞれ全国（全市町村の平均）を100とした指数で都市階級別に見てみると、タクシーと鉄道・バス（定期代含む）については、市町村の人口規模が大きい都市ほど公共交通機関が発達していることもあって、支出金額が多くなっています。一方、ガソリンについては人口規模が小さい都市ほど、支出金額が多くなっています（図2）。

図2 タクシー、鉄道・バス（定期代含む）及びガソリンの都市階級別 年間支出金額指数（全国=100）（平成22～24年平均）



都市階級の分類基準

大都市：政令指定都市^注及び東京都区部
 中都市：大都市を除く人口15万人以上の市
 小都市A：人口5万人以上15万人未満の市
 小都市B：人口5万人未満の市

注 平成19年4月1日現在において政令指定都市であった市

タクシーへの支出が多い長崎市

最後に、1世帯当たりのタクシーへの年間支出金額を都道府県庁所在市別に見てみると、平成22～24年平均では長崎市が12,280円と最も多くなっており、次いで東京都区部（12,238円）、京都市（10,813円）、盛岡市（9,599円）、那覇市（9,452円）となっています。

長崎市でタクシーの支出が多いのは、坂の多い街並みも関係していると思われます（図3）。

図3 都道府県庁所在市タクシーの年間支出金額（平成22～24年平均）

